

シルクロードの旅あれこれ

日本人墓地

旅程表ではハバロフスクで観光したとの記録はない。しかし、日本人墓地を訪れたことは間違いないので、第16日の航空機を降りて列車に乗り換える6時間強に間に訪れた筈である。特に、シベリアに抑留された経験を持たれる画家の阿部合成さんは、帰国叶わずこの地で亡くなられた同僚の兵士の墓の前で涙を流されておられました。

チャイハナ

写真も同時掲載してありますが、中央アジアの幾つかの国々では、地元の人々は「チャイハナ」と呼ばれる楽しい集いの場を利用している。掲載してはいないがウズベキスタンで撮った写真では、子どももいるし、アコーディオンを弾いたり踊ったりしてい憩いのひとときを楽しんでいた。

チャドル（ベルシャ語）

イスラム教徒の女性は、顔・手先・踝以下の足先を除き、頭からすっぽりと身を隠す「チャドル」呼ばれる衣服を着なければならないことになっている。それ以外の身体の素肌は身内の男性以外の男性の前でさらしてはならない厳しい戒律である。

ある私達の男性のお客さんが、何気なく、夫婦連れのうちの奥さんにカメラを向けたら、インツーリストのガイドが色をなして止めにかかった。ガイドの話のよると、カメラを奪われ中に入っていたフィルムを抜き取られた例があったとのこと。

近年、頭にかぶるヘジャブ（スカーフの意）を拒否したイランの若い女性が殺されたことも、同国の社会問題となったことも耳新しい。2024年刊行の「テヘランのすてきな女（金井真紀著）では、市民の間ではヘジャブをかぶらない例も出て来ているようだ。

私がイランに旅行した1978年は、西欧化を目指したパーレヴィー王朝が崩壊寸前でした。

イスラム教の六信五行

6つの信ずること（アッラー、天使、啓典、予言者、来世、予定）と5つの行うこと（信仰告白、礼拝、喜捨、断食、巡礼）を意味する。特に、断食については次項を参照あれ。

イスラム暦

イスラム暦は、1年間ひと月を29日と30日を交互に繰り返すことになっており、太陽暦のように閏年がないので1年は354日となり、太陽暦より平年で11日少なくなっている。

この中で大変なのは断食の月（ラマダーンは9月の意）で、われわれ旅行者には関係ないが、信者にとっては毎年11日少なくなっていくので、断食の月が早まって真夏とか真冬の月になることは避けられない。

色川大吉先生

このツアーで、サマルカンドだったかブハラだったかで、東京経済大学教授の色川大吉先生に偶然お逢いして名刺をいただいた。特に親しく話をしたわけでもなかったが、後年、先生がリスボンからカルカッタまで、主として東欧からイスラム世界へ約4万キロを、半年間かけての車での旅を綴った著書「ユーラシア大陸思索行」を読むことに繋がった。

近年では、先生の後援会「フォーラム色川」主催の講演会を、2016年の「少数者が歴史を変える」と2017年の「半生虚しく過ぐ旅窓の夢 ― 時事雑感 ―」に聴くことにもなった。